

## 第2章 特集1 館クリーンセンター稼働

館クリーンセンターは、安定・継続的に可燃ごみを処理していくために平成25年3月に策定した「八王子市ごみ処理基本計画」に基づき整備された施設です。令和4年10月に工期3年9か月の歳月を経て、1日あたりのごみ焼却能力160tの清掃工場として竣工しました。

設計・建設・運営を一体とするDBO方式にて、平成30年12月に事業者と契約、令和元年8月から建設工事に着手し、令和4年6月から試運転のためのごみ搬入を進め、10月1日には落成式を開催し、同日から正式稼働を開始しました。



館クリーンセンターは、循環型・低炭素社会に寄与する施設として、ごみ焼却によって得た熱をボイラーにて回収し、発電効率25.2%と国内トップクラスの蒸気タービン発電機で最大4,440kwの発電（一日の発電量として一般家庭約13,000世帯分の電気量に相当）を行っています。この高効率の発電機で作られた電力は、工場で使用しているほか、本庁舎など市の10施設へ自己託送を行い、電気の地産地消を行っています。

令和4年10月から令和5年3月末までの半年間で、館クリーンセンターからの自己託送電力により削減された二酸化炭素の量は約195tとなり、工場で使用した電力を含めると1,532tとなります。

また、「豊かな自然を守り、市民に親しまれる施設」として、工場棟4階フロアの見学スペースでは、ごみ搬入の様子やごみクレーンの稼働状況を大きな窓ガラス越しに見学できるスペース、体験型の資源物分別ゲームがあり、楽しみながらごみ処理の過程やごみ減量について学べる工夫を施しています。さらには、里山に囲まれた立地を活かし、敷地の北側には自然観察の森やビオトープ池、散策道を整備しました。

食品ロスの削減や資源の有効活用によるごみ減量は、廃棄物処理に伴う二酸化炭素排出量の削減につながる取組です。また、自然観察の森をはじめとした里山の保全是、二酸化炭素の吸収量を増やす取組でもあります。

館クリーンセンターは、地球温暖化対策の推進者として、廃棄物発電の効率的運用とともに、見学スペースや自然観察の森を活用した環境教育・環境学習を実施することで、率先して低炭素社会へ貢献できるよう取組を進めていきます。